

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	しあわせの郷 遠見塚3丁目グループホーム
(ユニット名)	同上
所在地 (県・市町村名)	宮城県仙台市若林区遠見塚3丁目14-12
記入者名 (管理者)	鈴木 江美
記入日	平成 20年 11月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程に基づき、理念を構築し、それを提示する事で、その人らしく暮らしを支援できるよう、明示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目の届く箇所へ理念を提示し、それを実践するため、ケアの基礎とし、ミーティングやカンファレンスなどに活用している。また、その内容を管理者が説明している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様へ利用者様の生活を記載したレターを毎月送付している。また、3ヶ月に1回、新聞を発行し、老人会、町内会、などに配布し、地域への理解を深めている。	○ 新聞の発行に関し、近隣店舗の情報を掲載しているが、その掲載する内容を店舗に留まらず、地域の住民の方の希望により、紹介記事を増大していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶の励行を周知すると共に、気軽に立ち寄っていただけるよう、新聞やお声掛けに配慮を行っている。また、ボランティアの方を招いた夏祭りを開催し、地域の方が楽しんでいただけるよう、努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議へ老人会、町内会長の方に参加して頂き、外部から意見、要望を取り入れている。また、運動会、盆踊りなど、積極的に行事、地域活動に参加し、地域との交流を深めている。また、夏祭りの収益金により、近隣小学校へ英語教材の寄与を行った。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会の方へ園芸用の土、肥料を提供した。	○	地域高齢者の方にお役に立つ取り組みを拡大させるため、運営推進会議にこの内容を取り入れ、方法を考慮し、実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票に関し、ケアに関する項目は一般スタッフが各自記入する事により、その理解に努めている。また、	○	指摘事項に関し、全スタッフへ項目を配布し、その改善を行う事により、より良いサービスの提供とは何かを考える礎としている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前に評価を行うことを明示した文書をご家族様へ送付している。また、アンケートのご協力をお願いする文面にその意義を記載し、理解を深めている。運営推進会議にて左記についての話し合いを行っている。	○	評価内容についての具体的な説明が不十分であるため、その内容を記載したものを、今後配布したいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政手続き、法律に関し、不明な点があった場合、スタッフが区役所の相談窓口へ相談を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の説明や、障害者手続きに関し、スタッフが区役所の担当窓口まで出向き、助言を受けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを有し、その周知を行っている。また、最近の問題について、新聞記事や事例を責任者が配布し、その防止に努めている。	○	管理者が研修会へ参加しているため、一般スタッフもその研修へ参加ができるよう、調整していきたい。また、何が虐待となりうるのかを、スタッフミーティングにて話し合う予定としている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご家族様との話し合いの機会を設け、説明、同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情や御意見の収集を行っている。また、その提示を行っている。	○ 収集された苦情や御意見を運営推進会議などで説明する機会を設けたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、利用者様の生活を写真や文書にしたレターを作成し、送付している。その内容に管理者からの連絡や挨拶、担当からの報告欄を設け、報告を行っている。金銭に関し、預かり金の明細書を発行し、それに合わせ、送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記レターへ苦情や御意見の収集をお願いする文面を掲載している。また、意見箱の設置、苦情処理にかんする文書を提示している。	○ 収集された苦情や御意見を運営推進会議などで説明する機会を設けたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議の内容をスタッフミーティング時に連絡し、その意見を徴収し、管理者が運営者へ報告を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員確保に関し、兼務が見られ、十分とは言えない状態である。求人は行っているものの、スタッフの確保が困難である。	○ 現在、1名休職状態であり、教育期間などを考慮すると、夜勤者の確保が不十分である。今後、速やかな対応を行い、スタッフの確保に努め、利用者様やご家族様の要望に柔軟に対応できる体制づくりを行っていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ミーティングなどにより、スタッフからの意見、要望を収集している。利用者様担当者に関しては長期に従事している者を担当とし、ご家族様との信頼関係を構築できるよう、配慮を行っている。	○ 離職者に関し、従事日数が浅く、自己都合にての離職が多い。面接時に十分な意志の確認を必要とする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や他の研修に参加できる機会を設け、段階に応じてのスキルアップを図っている。また、実践報告会へ参加し、その発表内容をスタッフが作成し、能力の向上を図った。	○ 新人や比較的従事日数の浅いスタッフも参加できる研修へ出席できる機会を設けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修やその他の研修により、同業者との交流を図っている。また、個々に他事業所への相談や情報の交換を行っており、その内容を運営者、管理者に報告している。	○ 他事業所との勉強会や訪問により、ネットワークづくりの推進を行っていきたい。また、その方法を今後摸索していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要に応じ、面談の機会を設けている。また、それぞれに抱える悩みなどを管理者へ話してもらうよう、スタッフへ声掛けを行っている。	○ 今後、スタッフ全員との面談の機会を設ける予定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれ役割を分担し、業務に取り組んでいる。また、運営者はスタッフの要望に関し、できるだけ柔軟な配慮ができるよう、勤務状況を把握し、その対応を行っている。	○ 各スタッフ個々の評価段階はあるが、その基準や評価方法が確立していないため、今後定める必要がある。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談から入居にいたるまでの経緯を明示したマニュアルを有している。また、相談時、状態を詳細に尋ねられるよう、問い合わせ受付票を個々に作成している。相談後の意向、状態の把握などを電話や手紙などで実施している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記を踏まえ、ご家族様も同様な対応を行っている。また、入居希望の手続き説明時、現在のホーム側の状況や、認知症共同生活介護とはどのような定義で成り立っているかの説明を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居問い合わせ受付票に簡略なアセスメント項目欄を設け、状況の把握に努めている。また、できるだけ見学や、訪問させていただけるよう、お声掛けを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前、ご家族様と十分な話し合いの機会を設けるよう努めている。また、詳細なアセスメント票を有し、情報の収集に努め、スタッフ間で情報の共有を行い、馴染みやすい環境を考慮し、対応している。	○	新規入居者様に応じ、生活意欲の向上、馴染みやいい環境づくりのため、お声掛けの工夫や、畑の開拓を行った。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や、製作物などを利用者様と協働にて行う事により、一緒に生活している実感を持っていただくよう配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との話し合いや連絡を密に行うよう、スタッフへ周知を行い、ケアに関する事はもちろん、世間状況や雑談を行える信頼関係づくりを意識して接している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様の近況報告や生活をレターにて報告している。また、御希望の場合、自由に電話ができるよう、配慮を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状の送付のお手伝い、友人との連絡などの支援を行っている。また、買い物など、馴染みの店舗にて行えるよう、スタッフが情報を共有し対応を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	アセスメントの記入により、個々の利用者様の状態を把握し、その方に合った人間関係の構築に努めている。しかしながら、認知度に差が生じ、時折微細ではあるが、トラブルとなるケースも発生する。	○	介護度、認知度の差により、誤解や意志伝達の相違が生じた場合の対応(環境も含む)が課題である。現在、スタッフの統一した声掛け、仲介により対応しているが、環境側面で対応できないかを検討中である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられて退所なさった方がおり、そのご家族様とのお話し合い、訪問などを行っている。また、その方のお墓参りを実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に基づき、利用者様へお話をお聞きしながら、自己決定に則したケアを心掛けている。また、その方の視点に立つよう、新人教育やミーティングなどで随時周知を図っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	詳細なアセスメント様式の使用により、生活歴の把握や、これからの暮らし方の支援について意向を聴取している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	上記アセスメントに加え、各居室担当が現状の把握に努め、ミーティングにて話し合いを行っている。また、個々にサービスプランを作成し、その方に合った支援を提供できるよう、努めている。	○	お一人お一人に合った生活や、運動、趣味の充実を図るため、業務の見直しによる時間の確保が必要である。今後、検討し、趣味の機会を提供する機会の増大に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに加え、介護計画に関し、カンファレンスを実施し、個々の利用者様のケアについて、話し合う機会を設けている。	○	介護計画に関し、ご家族様と十分な話し合いができる機会を設けたい。ご家族様の都合なども影響してしまうが、より良いサービスを提供するため、呼びかけを行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に関し、規定に順じ、見直しを行っている。また、モニタリング評価を月1回実施し、検討、見直し、考慮を行っている。	○	新規利用者様の入所前暫定介護計画について、確認印や、カンファレンスの記録がなく、指導監査時に指摘あり。今後はこのような事がないよう、入所時の介護計画の流れを文書化し、周知して行くものとする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録表へ個々に記録を残し、重要事項については、全体の申し送り表や、利用者別の申し送り表へ記入し、各スタッフ捺印の上確認し、情報を共有している。また、モニタリングやサービスプランに反映し、介護計画の見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様の状況、ご家族様の状況の把握に努めるため、ご家族様来訪時などに会話をするよう、スタッフ周知を行なっている。また、障害を持つ御家族様がいらっしゃるため、入居施設への面会の機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアを受け入れ、交流を図っている。また、小学生、中学生を対象とした社会見学を行っている。立会いによる消防訓練、スタッフ、利用者様出席による普通救急救命講習会の実施を行なった。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、金銭管理保護などの機関を利用し、連携を図っている。	○	他事業所との勉強会や訪問により、ネットワークづくりの推進を行っていきたい。また、その方法を今後摸索していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより依頼があった場合、情報を提供し、また、パンフレット、サービス内容、料金を記した文書を送付している。	○	グループホームとしては、地域包括センターとの交流や話し合いの機会が無いため、今後協働に向けた取り組みを実施したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の月2回の往診を行なっている。また、本人様が希望する医療機関を受診できるよう、スタッフ同行により配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師に相談を行い、また、必要時は電話による指示を受けられる体制を築いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は有してはいないが、併設されたデイサービス看護職員への相談を行なっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は施設側の訪問の機会を多く取れるよう、配慮している。また、病院側のケースワーカーと連携を図り、医師との話し合いの機会を設け、早期退院に向け、尽力している。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて、マニュアルは有しているものの、実際の活用に即していない。また、新職員が多く、重度化の認識も薄い。	○	今後、重度化した場合の対処や、ターミナルについての事業所側の定義が必要となるため、提起を行なっていく。また、勉強会の開催など、スタッフ周知の機会を設けていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記同様、取り決めが必要である。	○	上記同様、取り決めが必要である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話し合い、情報交換を行なうため、ご家族様からの相談を受け易い雰囲気づくりを行なっている。また、必要時には、ただちに対応できるよう、他事業所、老人福祉施設の最新の検索を行い、名簿として保管している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人時情報に関し、重要な情報の記録はステーション内の鍵の掛かる場所へ保管している。また、言葉や態度について、スタッフミーティング時にスタッフへ周知を行っており、利用者様の立場に立った言動を行なうよう、互いに注意を払っていく雰囲気ができている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様一人ひとりに合わせた声掛け、話し方をしており、本人様の希望を記載したアセスメントなどを基に、利用者様の思いを尊重したケアを行なっている。	本人様の希望により、外出や外食、個別レクリエーションを行い、生活の充実を図っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず、個々のペースに合わせた支援を行なっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容やおしゃれができるように、声掛けや化粧品の準備などを行なっている。また、本人様のご希望により理髪室を決定している。	本人様のご希望により、美容室へ定期的にシャンプーや、セットに行けるよう、配慮を行なっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好み等を考慮したメニューの作成、嚥下レベルに合わせた食事の提供を行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様の体調に合わせ、飲酒を実施し、満足を得ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄状況を記録しており、排泄パターンの把握し、排泄の失敗を予防できるよう、努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	予定として入浴の期日は決めているが、ご希望に添って柔軟に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を考慮し、消灯前の談話の実施など、安眠できるような雰囲気づくりを行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	意識的に家事等を手伝っていただき、常に感謝の気持ちをつたえる事で、張り合い、生きがいを感じて生活していただけるよう、配慮を行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望に応じて、金銭の管理を行なえるよう、配慮している。その際、利用者様の許可を得て、スタッフと共に残高計算、集計を行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外食など、利用者様の希望に合わせ、実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人様の希望により、外出の支援を行なっている。ご家族様が都合の良い時は、ご家族様同行にて外出を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、季節のお手紙などの送付の手伝いを行なっている。また、希望時には、いつでも電話を掛けられる状態にあり、関わりの支援を行なっている。	○	御家族様やご友人に手紙を書く機会を増やしていきたい。また、知り合えたボランティアの方や社会見学の方へお礼の手紙などを書く機会を提供していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人様の希望を尊重し、気軽に訪問ができるよう、声掛けなどに配慮している。訪問時にはお茶やお菓子を提供し、和やかな雰囲気づくりを行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを有しており、新人研修内にその内容を取り入れている。また、管理者が左記に関する研修へ参加し、その内容を他スタッフへ周知を行なっている。	○	玄関へ離設防止用のセンサーを設置しており、現在、使用しないような方法を検討中である。また、歩行不安定の利用者様へセンサーを設置しているため、撤去する方法をカンファレンスにより捻出していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束防止の観点から、施錠は行なっていないが、センサーを設置しているため、その撤去に向けた対策を検討中である。	○	玄関が死角となっており、玄関前が駐車場となっているため、安全面の配慮からセンサーを設置しているが、その撤去の方法を検討し、安全を考慮しながらの対策を実施していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室時の臥床時の安否確認を行なっている。夜間は定時に安否の確認を行なっており、記録に残している。安否確認方法に関しては、その方法を各スタッフへ周知を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物に関し、指導監査にて指摘を受け、改善中である。また、包丁などは、ステーション内に保管している。利用者様の認識があった場合、状態に応じ、いつでも使用できる場所へ置いておく場合もある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	応急、緊急処置用のマニュアルを有し、それを各スタッフへ配布している。また、普通救急救命講習会を当ホームで開催している。		新人職員への周知が未実施であるため、実施する予定である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急、緊急処置用のマニュアルを有し、それを各スタッフへ配布している。また、普通救急救命講習会を当ホームで開催している。	○	新人職員への周知が未実施であるため、実施する予定である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練、地震避難訓練を2回/年実施し、それに加え、夜間時の避難訓練を1回/年に行なっている。また、風水害の対策マニュアルを有している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについて、文書や話し合いの機会を設け、その対策についてアセスメントを行なっている。あくまで自然な雰囲気重要視し、抑圧感の無いケアをスタッフミーティングなどで周知を行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活記録表へ毎日のバイタルを記録し、必要に応じ、再検査を行なっている。また、際立った異常時には、協力医療機関と連携し、安心して生活できる体制を築いている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々利用者様別に服薬表を作成しており、服薬内容の周知に努めている。また、薬剤師の方へいつでも相談できる体制を整えている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄状況を記録しており、必要に応じ、協力医療機関、かかりつけ医の指示のもと、下剤の調整を行なっている。また、適度な運動や、腸に働きかけるメニューの作成を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがい、歯磨きの声掛けを行なっており、自由意志にもとづいて、その支援を行なっている。また、1回/月訪問歯科の診察を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行っており、状態に合わせた形態で、食事の提供を行なっている。また、水分摂取量の確認、記録を行っており、困難な場合、セリーなどで水分の補給を行なっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを有しており、それを配布することで、スタッフ周知を行なっている。	○	事業所としての取り決めが確定しておらず、文書にての提起と、説明、同意を必要とする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを有し、その周知を図っている。手洗い場所へ、食中毒予防のポスターを掲示し、衛生管理に努めている。新人教育資料へ手洗い方法、目的を組み込み、周知を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	畑を有し、その管理について、お隣の方からのアドバイスを受けている。また、それによって、交流の機会を設けている。	○	玄関に関し、駐車スペースが少ないため、駐車場となっている。今後、工夫を凝らし、馴染み易い雰囲気を作り上げていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光度調整や物音に配慮し、穏やかな空間づくりに配慮を行なっている。希望時には好きな音楽などを流し、心の安定に努めている。また、季節により装飾を変更している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の自由に過ごしていただくため、朝の体操以外、特別に活動内容は決めておらず、本人様の自由意志を尊重している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の所有していたものを居室内に設置し、安心感を持っていただけるよう、配慮している。居室の清掃や装飾、写真物の掲示など、家庭的な雰囲気を大切にするための工夫を行なっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常時温度や湿度に配慮し、必要に応じ、エアコンや加湿器、床暖房を使用し、環境の調整を行なっている。また、定期的な清掃を実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りが随所に配置され、自立を支援している。また、必要に応じ、各居室へ滑り止めを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	能力トレーニングや、間違い探し、トランプなどを個別レクリエーションに取り入れ、認知症の進行防止を図っている。	○	個々に合わせたプログラムを組み、継続して実施できるような支援を行なっていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を飾ったり、畑を開拓したりなど、利用者様が楽しめるような環境づくりを行なっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

遠見塚3丁目しあわせの郷グループホームは、入居されている方々お1人お1人の人生の軌跡を大切にし、その方らしい生活を送る事を応援致します。地域社会で生活する一員として、地域の行事等に積極的に参加され、子ども会や老人会、学校との交流を盛んに行なっております。

1日1日を大切に、その日その日を大切に楽しく送って頂くために、お手伝いするスタッフもチームワークを大切にしながら、仕事という感覚ではなく、一緒に生活しているという気持ちを持ち明るく過ごして頂けることを目標に日々努力しております。

自分の家族を、また自分が入居したくなるグループホームづくり、それが遠見塚3丁目しあわせの郷グループホームの目標です。